

鹿児島の動物⑧ マムシ咬傷

脊椎動物担当 中間 弘

マムシ（クサリヘビ科）は、全長40～60cmで、尾から先が急に細くなっている、全体的にずんぐりとした体型です。背面が褐色の地に、中央部に黒色の斑点がある楕円形の斑紋が左右交互に並んでいるのが特徴で、それを穴開きの銭に見立てて銭形紋と呼ぶことがあります。種子島・屋久島以北の日本全国に分布し、森林から田畑まで広く生息しています。

毒蛇として知られ、恐れられています。実際はおとなしいヘビです。マムシのほうから積極的に向かってきて咬み付くということはないので、出会っても慌てることはありません。しかし、マムシに咬まれる被害（咬傷）は後を絶ちません。なぜ、咬傷事故は起こるのでしょうか。

マムシは夜行性で昼間は草陰や石の隙間などで休んでいることが多いですが、冬眠前と

夏の妊娠雌は昼間にも活動します。基本的にカエル類を餌にするため、田んぼや水辺に頻繁に出没します。ただ、体の模様が保護色になっていて気付きにくいいため、稲の刈り取りや周辺の草刈りなどの際に潜んでいたマムシに手先を咬まれるという事故が起こり易いというわけです。

毒は出血性で非常に強いものの、量が少ないため死亡に至ることは少ないで



す。咬まれた場合は、速やかに傷口から毒を絞り出し、病院で血清治療を受ければ死亡事故をほぼ防ぐことができます。

秋はマムシが活発に活動する季節でもありますから、山や水辺に出掛けるときには十分に足元や手先に気を付けて行動しましょう。

鹿児島の火山② 火山の博物館 霧島火山

地質担当 前田 利久

霧島火山は、鹿児島県と宮崎県の県境にある火山群の総称です。最高峰の韓国岳（1700m）をはじめ、天孫光臨の山として知られる高千穂峰、歴史時代の多くの噴火記録をもつ新燃岳や御鉢など20余りの火山が、北西-南東方向に延びた20km×30kmの範囲に分布しています。成層火山や溶岩ドーム、マールなど様々な火山地形、そして溶岩や火砕流、岩屑なだれなど多種多様な堆積物がみられ、さながら「火山の博物館」です。

霧島火山の活動は、その北側にある加久藤カルデラで約30万年前に起こった大噴火の直後に始まったと考えられています。古期の火山活動は、30万年前から15万年前くらいまで続き、鳥帽子岳、栗野岳、獅子戸岳、矢岳などの火山ができました。これらの火山は噴火



口が不明瞭です。

新期の火山活動は、10万年くらい前から現在まで続いており、韓国岳や高千穂峰に代表される火山ができました。これらの火山は噴火口が明瞭です。

歴史時代では、742年の記録以来60回をこえる噴火が記録されています。硫黄山は1768年にでき、新燃岳は1716年から翌年にかけて大噴火しています。霧島神宮は、もともと高千穂峰にあったものが御鉢の噴火によって焼失し、高千穂河原を経て現在の場所に移転しています。